

令和8年度 第1回 枕崎市総合教育会議 会議録

日時 令和8年6月4日(木) 午後2時15分～3時05分

場所 市役所2階会議室

出席者

枕崎市長 前田祝成、教育長 木之下浩一

教育委員 市田芳一、教育委員 下窪節子、教育委員 戸床恵美子

(事務局)

教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、総務課長、総務課主幹兼秘書広報係長、秘書広報係主任

※俵積田委員は所用により欠席

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議

市長

それでは私の方で協議を進めさせていただきたいと思います。まず、望ましい学校づくり審議会の諮問内容についてということで、教育委員会からの説明をお願いいたします。

教育総務課長

望ましい学校づくり審議会につきましては、令和4年度には別府中学校において、また、令和6年度には桜山中学校において、審議をいただいております。学校の生徒数の推移などから令和9年度に再度、審議会を開催することが望ましいとの共通した答申の内容であったことを踏まえまして、令和9年度に審議会開催を予定していたところで

しかしながら、少子化の進行の加速、市民の方からの御意見などを参考に総合的に判断し、予定していた市全体の審議会を1年前倒して、令和8年度に開催することとなり、3月の市長の施政方針でも述べられ、また、教育委員の皆様には、審議会開

催に向けて、先月、審議会設置要綱の一部改正について、特に委員の人数について御審議いただいたところです。

まず、はじめに1頁を御覧ください。審議会の開催にかかる関連するスケジュールを簡単に申し上げます。6月4日、本日この後、定例教育委員会において、審議会の設置要綱の一部改正や、委員の委嘱に関することについて審議いただき、まず第1回を6月26日（金）に開催し、概ね2か月に1回のペースで開催を予定しております。そして、審議の進行状況にもよりますが、年が明けまして来年1月頃には審議会から教育長に答申をいただき、総合教育会議等を経て、今年度中に議会や市民への公表を予定しているところです。

前置きが長くなりましたが、次に2頁目をお開きください。こちらが、今回の第1回目の審議会に諮問される内容となっています。表題については、「市内全中学校の再編・統廃合について」ということとしております。内容としましては、「下記のとおり意見を求めます。」の内容について読み上げますと、「本市において、少子化の進行に伴う児童生徒数の減少が今後も見込まれ、また、学校施設の老朽化など、教育環境を取り巻く課題が顕在化しています。このような状況の中で、将来にわたり、子供たちにとって望ましい教育環境を確保するとともに、学校教育の質の維持・向上を図るため、学校再編・統廃合を検討する必要があります。つきましては、市内全中学校の再編・統廃合に関わる具体的な報告について意見を求めます。」ということで考えているところです。

まず、この表題「市内全中学校の再編・統廃合」とした理由としましては、これまでの審議会中学校の再編・統廃合について審議してきた経緯があり、その審議会を、今年度実施することになったこと。小学校の再編・統廃合については、審議会が行われておらず、また地域内の合意形成において、まだそのような議論が行われているとは言えないこと。小学校は、教育面はもちろん、生活面、コミュニティ面、産業振興面において地域の拠点となる施設であり、慎重に検討する必要があること。などから、まずは中学校の再編・統廃合を優先して検討し、合意形成を図っていききたいというふうに考えているところです。

付け加えまして、3ページ目を御覧いただきたいんですが、現在、学校の再編や統廃合を進める基準としまして、3ページの2番目、学校配置というところに記載がございすけれども、こちらは、平成24年度の基本方針ということで、その中に、小学校においてはということで、複式学級の数、人数がですね、10人以下となり、今後、児童数が30人以下となった場合は、児童の教育効果を考慮し、再編・統廃合を進

めることを検討するとなつているところであります。この内容につきましては、近い将来、小学校の再編・統廃合についても検討することがあろうかと思いますが、そのこちらの基本方針にある検討基準を、新たな時代に合わせた内容ですね、教育委員会としまして、研究しながら審議会にお示しし、見直すこととして検討しているところです。その上で、次年度以降、具体的な審議をお願いできればというふうに考えているところです。答申の内容についての説明は以上です。

市長

はい、ありがとうございました。ただいま、教育委員会の方からですね、説明がございました。その内容についてですね、皆さん方から御質問とか御意見をいただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

繰り返しになるかもしれませんが、今回、一年前倒しというのは、社会的な背景、今日の新聞等でもですね、出生数の減少のことも出ていました、昨今の人口減少の加速化ということがあって、少子化が加速しているということですね、できるだけ早くですね、いろいろで結論を得たいということもあり、一年前倒して、今日、始めましょうということを提案させていただいたところでございます。で、さらに小学校についてはですね、これまでも審議会を開催したことがないということと、あるいは、小学校についての再編というところの地域の合意形式まで至ってないのではないかというのが、あるいは小学校においては生活面、あるいは、その学習にだけでなく生活面においてもですね、地域拠点としてのあり方というのがあるのではないということもありですね、今回は市内の全中学校の再編・統廃合ということに絞ってですね、御審議いただくというような形での支援を検討しているというところでございます。

市長

補足があれば。

教育長

今、説明をしたとおりですけども、今から答申をお願いしていくわけですが、基本的な考え方としては、教育委員会として考えているのは、中学校の統合問題での単なる学校の構成だけの問題ではなくて、子供たちの学習環境とか、地域コミュニティ、それから保護者の感情、財政的な面、通学安全、地域の将来像と、いろんな面の課題

を含みます。そのため、総合教育会議における協議調整は、市長部局と教育委員会がそれぞれの立場を尊重しながら、子供を中心に据えて方向性を共有することが大事だというふうに考えております。統合の議論では、どうしても財政的な側面とか、人口減少への対応が全面に出やすくなってしまいますが、本市としては、教育委員会としては、まず第一に考えなければならないのが、子供たちにとって望ましい学習環境とは何か。そして集団活動など対人関係形成に必要な学校規模はどうあるべきか。そして教員配置や専門教科指導を維持できるかなど、教育的な効果を中心に据えて議論することが大事であろうというふうに思っております。学校を残すかとか、なくすかではなくて、子供たちにどのような教育環境を保障するか、という視点で、転換が必要じゃないかというふうに考えて、この答申を求めていると考えているところで

市長

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。

市長

すみません、こちらの発言で申し訳ないのですが、今教育長からございましたように、無くすとか、あるいは統廃合とか、まあ地域の環境とか、そういう部分が話される傾向にある中で、そういった子供中心の、あるいは学習の状態だとか、集団活動であるとかいろんな意味で、どちらかという教育の専門的なファクターがその審議会の協議の中でやっていかないといけないってなった時に教育委員会の方からのその情報提供というかある程度の専門的な、見地というかですね、それが、もしかしたら必要になってくる可能性があるなって、今お話をお伺いして思いました。どうしても地域住民とか、親の感情的なところでの議論になってしまいがちなところを、もう少しこう、皆さん冷静にというか、フラットにというか、考えるためにもですね、そういった部分もやっぱり少し必要になってくるのかなという感じを、今、教育長の御意見をお伺いして受けました。ですので、そのあたりも、まあ何回かの審議会の中で、少しそういう部分をしっかり示してあげるっていうのは必要かな。できるだけ早い段階でですね。そういうのが必要かな。なんか議論のよりどころというか、戻ってくるところをやっぱり置いておかないと。ちゃんとしとかなないと、こうあちこちに行った時に、でもこれですよね、本来の趣旨というか、まあ子供ファーストじゃないですけ

ど、そうですよねっていうところに、やっぱりこう帰ってこれるようにしていけないといけないのかなと思います。

教育長

以前、議会の委員会の中で、金山小が統合が終わった後に、ある議員さんから委員会の中で、まあ金山が統合するにあたって、教育委員会が今後統合する場合に行政主導でしていくのか、それとも地域に任せて話し合わせるのかってなことを聞かれたことがあるんですが、私は行政主導ではなくて、やはり地域の住民の意見を聞く、卒業生、子供たちの意見も聞く、そういうのが大事じゃないかと答えたんですね。それに対する議員の答えとしては、やはり行政主導の方が良かったと。なぜかといえば、地域が分断された。というようなこともおっしゃっていたのもあったんですがね。だからその前にやはり今のようなことをしっかりと話をし、方向性をしっかりとこう定めていって、ずれそうになったら元に戻し、子供ファーストにしましょうねっていうのでいった方がいいんじゃないかと思って、ちょっと最初にお話を差し上げたところでした。

市長

地域の話合いだけで結論を出すというのはやっぱり無理ではあると思うんですね。

教育長

間違えてはいけないのが、審議会の答申がそのままいくじゃなくて、やはりそこに市長部局、それから教育委員会等の考えを入れながら、子供たちにとって何が一番いいかというのが大きな視点ではないかというところをしっかりと意識づけたいと思っています。

市長

皆さま方から何か。細かな文言でも。何かございませんか。このような形で承認ということでもいいですか。

委員

いろんなところを見たりとか聞いたりだとか、自分の経験とかいろいろ考えた時に、今の状況、まず各学校での学力の差というのが明らかに出てきているというのが

あるんですよね。というのは何でかと言うと、やっぱり競争心とか、競争ってあんまり今言わないですけど、学力に関しても何にしても、その学校でここにいるからいいやっていう安心感が非常に高すぎて、いざ高校受験となったときに全く点数が全然足りてないっていう、そういう状況というのがあったりするので、やっぱり人員が増えればそれだけいろんな子たちが来て、教職員の方々も増えてたりとかあるんですけど、そういった面では、レベルは上がっていくのかなと思ったりします。あとは小学校、中学校ずっと同じメンバーでいるので、例えば学校でトラブルがあったときに、いじめ問題とかがあった時に、それが小学校で終わると中学校まで引きずっていくんですよ。これが中学校で再編成になってくると、そこがまた自分の仲間、また別な仲間ができてくるので、そこはいじめ問題に関してもすごく変わってくるのかなというのはあります。我々も立神小学校から枕崎中学校に移ったときに、そこらへんは小学校のときにすごいじめられた子が、中学校に入った瞬間そのいじめがピタッと止まったってやっぱりあるので、そこらへんはそうなってくれたらいいのかなと思ったりします。

市長

学校規模が大きくなることにより、当然プラスマイナスもあったり、小学校から中学校に上がるときに、環境が変わることによるプラスマイナスとしてあって、そこはやっぱりあの議論の対象になってくるというふうに思います。そのあたりもある程度、まあ教育委員会としても、想定される議論のルールを、想像力を働かせて、しっかりとしたこう、ロジックというか、そこは準備しておく必要があるかなという感じがします。まあ、どっちに転ぶかというのものもあるんでしょうが、しっかりとした根拠というかデータというか、そういうのはしっかり準備しておく必要はあると思います。

委員

地域スポーツ化が進んできて、今まで立神だったら立神の子としか遊んでなかった子が枕崎の子と遊ぶようになって、高校を選ぶときにやっぱり何も友達がいないところにね、全然そこに同じ志を持った子が集まっていけるとか、そういうのも聞いたりもするし、その反面もあるんでしょうけど、すごくなかなか難しい問題ではありますけど、難しいなと思います。

市長

現状把握も大切です。メンバーも指名されているんですね。

教育総務課長

メンバーにつきましては、この後の定例教育委員会で正式には決定されることになります。予定される方のメンバーとしては、お手元に資料を配布しているところです。住民の代表の方でありますとか、保護者の代表の各学校のPTAの会長でありますとか、御覧の21名の方々を予定しているところであります。

委員

この現場で話し合うための何かの1本の決め手ということで、まあ統合ありきで考えていいのか。統合ありきではない？

市長

基本的には諮問は白紙諮問ということで、やることになります。

委員

すごく難しいですよ。目標のうちには、例えば何年までに統合とかあると目標が決めやすいです。じゃあどうしますかっていうのはなかなか難しいですよ。

市長

おそらくスタートの時点はそのような形になろうかと思います。まあ、我々も言いますか、私自身はいろんな想定をしております。で、白紙諮問すると、当然、審議会の場で委員の方から当局はどう考えているんだとかっていう、問いもあるだろうということも想定しています。そこについては市としての、まあ市としてのというか、当局としての考え方、そこはあまりこう決め打ちではなくて、いろんな可能性も含めてですね、お示しするタイミングの機会も出てくるんじゃないかなというのを想定した上でですね、白紙諮問という形をさせていただきたいなというふうに思います。

委員

ということは、統合に向けた、例えば基本方針というのもし立てられないですね。

市長

そこを立てなきゃいけない状況になるかならないかを答申いただくっていう形になるんです。

委員

統合したいんですか、したくないんですかっていう白黒をつけることも。

市長

市の考え方を教えてくださっていうのが当然出てくるので、やっぱりさっきの話じゃないですけど、いろんな時代背景とか、実際に人口増減とか、そのへんを判断した上で、市としてはやはりもうこの時期にはこうじゃないですかっていうのを述べないといけないかもしれませんし、そこは出てきたときにしっかりと答えられるようにします。

委員

ここから出てくる答えと、当局の考えをしっかりと、最終的にはすり合わせというか、合致させて、基本方針を決めていくというような流れになるんでしょうか。なかなか、この審議会ではどんなふうに出るかというのが、、ある程度のあの道筋を立ててあげた方がいいのかなっていう感覚はあります。だいたいこうしてみたいな。変な方向に走った場合はちょっと厳しくなるのかなと。まあ若干の誘導じゃないですけど、あの道筋があった方がいいのかなっていうところです。

市長

そのあたりを含めて審議をしていただくことになろうかと思います。どこかの段階である程度、市としての方向性というか、そういうのを示してほしいという審議会の中での御意見が出れば、示さなければならないですね。これは委員とか今から決めるんですか？

教育総務課長

これから定例教育委員会で決定します。

委員

例えばこれを動かすための委員長とか決めていいんですか。

教育総務課長

審議会が始まってから会長を決定するということになろうかと思います。

市長

今日の、この会議の中では、この諮問の内容についてお諮りして、この内容でよろしいでしょうかということで、確認をさせていただきたいと思います。

委員

他の市町村と違ってどうしてるんですか。

市長

市の方で主導してるっていうのはおそらくないと思います。審議会の場合はですね。おそらくすべては状況だけを説明ということでした上で、白紙でっていう形にならないと、審議会の役割としてはいかがかなという感じです。あまりこう誘導するとういうようにならないように。で、そこで出てきた答申を踏まえて、最終的にはそのとおりにはしないといけないって話ではないわけです。そこを参考にしながら、市としては、じゃあこういう結論を出しましょう、こういうふうにしましょう。という形になりますので、その審議会の答申が、全て決定事項になるということではない。

教育長

それも大事なことで、最初にそれは審議会のときに言っておかないといけないことだと思いますね。ここが決定ではありませんと。

委員

別府中学校ですよ。この人数を見たときが。中学校に関しては、1学年15人以下、全校生徒45人以下となったときってなったときは。

教育総務課長

別府中学校に関しては9年度にピークを迎えて、その後減少していくという推移となっています。

委員

中学校は、令和10年度が全校生徒が42名なんですよ。一年生が9名。

教育総務課長

47人ですね。

委員

11年が40か。うん。

市長

まあ、今回も一つのデータとして見ていただいて、審議していただくといいと思います。

教育長

先ほど他の市町村はどうですかと出たんですけども、今の形としては、地域がもううちの小学校は少なくなってきた、教育効果が上がらないから、もうどこどこ統合させてくださいというのを地域の方々が教育委員会に持ってくる、署名を持っていくというような、そういうのが多いと思います。例えば鹿児島市の旧喜入町の前之浜小とかは喜入小と一緒にしてくださいって、この間持って行ったら、新聞に載ってましたですよ。あのような形が一番スムーズかもしれませんけど。

委員

住民も協力的になりますからね。

委員

枕崎ではありえないですね。

委員

地域柄がすごい強いから難しい。

委員

多分決めるのは結構苦勞すると思う。

教育長

組み合わせをおそらく気にされると思います。まあ一校にするのか二校にするのかというところも出るでしょうし、二校だったらどの組み合わせにするのかと。

委員

別府は一つ離れてる感じだもんね。桜山、枕崎は近いけど。

市長

地理的なこともあるし、歴史的なこともあるし。風土的なものもあるし。まあ、いろいろな要素はあり、それを踏まえたその議論の中で出てくる答申に対して、市としてどういう答えを出すのか。まあ、議論は深めていただければいただいた分、やっぱりいいのかなって感じがします。

市長

このような諮問でさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。よろしく願いいたします。ありがとうございます。今、皆さんからいろいろ御意見いただきました。審議会に諮問して調査、審議していただくことをお願いしたいと思います。せっかくの機会ですが、その他に何か皆様方からございますでしょうか。それでは、今日の方はこれで終了させていただきたいと思います。

総務課長

それでは、協議事項以外につきまして、委員の皆様方からございますでしょうか。よろしかったでしょうか。それでは、今回の会議、大変急遽になりましたけれども、また次回の開催の際は、事前に事務局の方から御案内させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和8年度第1回枕崎市総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。ありがとうございます。